

1. 件名：東京電力福島第一原子力発電所の事故分析に関する面談
2. 日時：令和5年4月11日（火）14時00分～15時30分
3. 場所：原子力規制庁 6階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

星上席技術研究調査官、木原室長補佐、入江技術研究調査官

岩永企画調査官、安部室長補佐（テレビ会議システムによる出席）

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（テレビ会議システムによる出席）

安全研究・防災支援部門 安全研究センター

担当者 2名

安全研究・防災支援部門 規制・国際情報分析室

担当者 1名

安全研究・防災支援部門 福島第一原子力発電所事故分析チーム

担当者 2名

東京電力ホールディングス株式会社（テレビ会議システムによる出席）

福島第一廃炉推進カンパニー 原子力設備管理部

担当者 4名

経営技術戦略研究所

担当者 1名

5. 要旨

- 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（以下「JAEA」という。）から、東京電力福島第一原子力発電所の事故分析に係るBWR格納容器内有機材料熱分解生成気体の分析に関する令和4年度の分析結果の概要について、資料に基づき、説明があった。
- 東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から、東京電力福島第一原子力発電所の事故分析に係るケーブル・塗料・保温材の可燃性ガス発生量評価に関する令和4年度の評価結果の概要について、資料に基づき、説明があった。
- JAEA及び東京電力における令和4年度の分析・評価結果に関して、各分析データの処理方法やデータ比較方法について、関係者間で議論した。
- 原子力規制庁から、次回の東京電力福島第一原子力発電所における事故の分析に係る検討会において議論するため、分析データの比較用に単位等の共通化を図れる部分について対応するよう依頼した。JAEA及び東京電力から、承

知した旨の回答があった。

## 6. 資料

- BWR格納容器内有機材料熱分解生成気体の分析結果（日本原子力研究開発機構）
- ケーブルなどから発生する可燃性ガス発生量評価及び可燃性有機ガス燃焼試験進捗状況（東京電力ホールディングス株式会社）

以上